

# 医学検査学科新設目指す国福大

# 新棟着工、来夏完成へ

大田原

【大田原】臨床検査技師を養成する「医学検査学科」の2025年春新設を目指す北金丸の国際医療福祉大大田原キャンパスで9日、新学科棟の起工式が行われた。新棟に、がんゲノム医療にも活用される装置など最新研究機器を備える。高木邦格理事長は「来春は開学30周年の節目。県や市に恩返ししたい」などとあいさつした。

(山崎一洋)



新設される医学検査学科棟の完成予想図

## 最新研究機器を整備

国家資格の臨床検査技師は偏在や不足が指摘されている。国福大は新学科設置について、文部科学省に申請中。1学年定員80人を想定している。県内や東北地方の4年制私立大で、臨床検査技師の養成を目的とする学科は初めて。

新棟は鉄骨造り4階建てで、延べ床面積約5900平方メートル。四つの講義室、六つのゼミ室、実習室、研究室などを整備する。

臨床検査技師は血液、心電図、脳波の検査、PCR検査などを担うほか、遺伝子治療といった先進医療に



くわ入れをする高木邦格理事長(右)と鈴木康裕学長

適応できる人材も求められるという。新棟には「遺伝子解析システム」「質量分析装置」「リアルタイムPCR装置」といった最新研究機器も取りそろえる計画だ。

新棟は来夏に完成予定。来春入学する第1期生は来年度後期の授業から使えるようになる見込み。起工式には、大学や行政、工事関係者ら約40人が出席。神事で高木理事長と鈴木康裕学長がくわ入れを執り行った。高木理事長は「医療の中で重要な役割を果たす臨床検査技師をしっかりと養成したい」とあいさつ。相馬憲一市長が期待とお祝いを述べた。

木康裕学長がくわ入れを執り行った。高木理事長は「医療の中で重要な役割を果たす臨床検査技師をしっかりと養成したい」とあいさつ。相馬憲一市長が期待とお祝いを述べた。